森の名手・名人シリーズ41

名人 安江 正行（76）
岐阜県加茂郡白川町

聞き手 服部 裕也
岐阜県立加茂農林高等学校2年
平成23年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が認定されています。岐阜県においては、現在、47名の「森の名手・名人」が認定されています。

この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

造林手（枝打ち）
佐見の山

1. 大好きな山

山の手入れは主に間伐、枝打ちをしとる。チェーンソーができる前は全部のこぎりやった。チェーンソーを使うような枝はなるだけ打たん方がいいけど大きい枝は使うときもある。ヒノキを主体にやっとる。このへんは東濃ヒノキっつって非常に質がいいもんで、小さいうちから枝を打っていって柱になったときに、節が出んように。つまり、枝打ちは無節の柱をつくるためにやるんや。柱に節が全然出とらん柱のことを四方無節っていって1番単価がいいわ。目が細こうて、色が黄色っぽいような色で。少しでもまがっとれば全然だめ。2m、3m、4m、長い木やと8mぐらいに伐るわ。木によって違うけど、2本から3本柱がとれる。単価がいいのは1番もとだけやもんで、2番、3番はうんと値段が下がる。おれは植えてからもう3年目ぐらいから枝打ちをする。何回も何回もやって最終的には5、6回はやったけど、なかなかみんながみんなそんだけできんわなぁ。だいたい植えてから柱にするまでには、50年くらいはかかる。おれが中学卒業したころ植えた木で4、5年前に自分で伐って、市場に出してあのころまんだ金とれたけど、今はもうものすごう安なってしまった。今の仕事を始めようと思うたきっかけは、とにかく山が好きで、山行って仕事をすることが楽しみやった。

2. 大事な間伐

野菜なんかでもまいたまんまやとびっしびっしに生えとるもんで、それを間引きするわけや。それと一緒のことで、びっしびっしやと木が細うなってまって太うなれんもんで、間伐するんやわ。間伐する木はその場その場で見ればわかる。職人の大事な仕事やわ。5、6年に1回ぐらいは、やっていかなかんわ。大きくなるとだんだん枝が枯れあがってまって、日が入らんようになると下草も、もう生えんようになってまう。山の広さはその山々でいろいろあるが、今行っとるので大きい山で7haぐらいの山を手入れをしとるわ。自分の山は、13haくらい。8割くらいは植林してほとんど枝打ちやるやないくらいの手入れをして、もうやればきりがないで。山のある人でも全然山に関心のない人やと山の手入れしんわけや。おれらみたいな好きな人が、たぶん集落に1人か2人くらいしかないような状態やわ。初めのうちは1人で頼まれてやりおったけど、間に合わんようになって今は友達と4人グループでやっとるわ。山があっても半分くらいは植えて30年生くらいのヒノキや。そのほかはもっと大きい木で残ったやつがあるもんで、そいつの下刈り、雑木を伐る手入れをしとる。下刈りっていうのは苗木を植えたときに、雑木の方が勢いがいいもんで覆いかぶさってまうで、そうならんように伐るんや。最低3回くらいは下刈りしなきゃいかん。

自作のこぎりを伸ばした様子

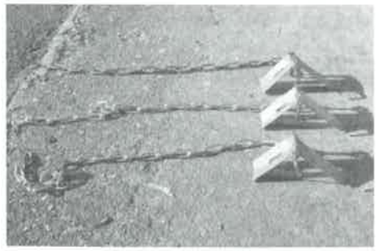
3. 今と昔

おれらが中学卒業した頃は、家を建て替えるならもう山しかなかった。屋根替えしても家直しても、全部山で木を伐って、その金で今まではやってこれたけど。もう10年くらい前からはほんと木が安うなってまったもんで、どうしよもないわ。外材のために林業家はものすごう痛手やわ。そのかわり、枝打ちやとか間伐は補助金があるおかげで手入れができるってことやけどね。補助金だけでは十分な日当にはならん。林業だけではとてもじゃないが生活できん状態やわ。林業のほかに農業をしとる。もう往年の畑では収入のでるような作物はなんにもないし、自分のとこで食べるだけくらいの野菜作りやわ。でも今しとる山仕事以外は、他のことは考えられんな。

木を伐ったら、出しが1番大変や。おれは人の機械を借りて、去年は間伐した木を市場に出すようにしとった。利用間伐は大きいやつから伐ってそれを売ってお金にするわけや。木材を運びだすのをせり出しっていう。大きい山やと架線をはって線で。昔は牛にひかせて出しとったが、もうそやってやる人がゼロになった。遠いとこからではもう全然出せんわけや。出しても金にならへん。出しにかかってまうもんで。木の苗は、まいてから畑で3年ぐらい育てて、山に持ってって植える。昔は各家々で苗を育てたのに、植林する人も少ないな。最近は森林組合頼りで注文して、苗木を買って植林している。

4. 経験から技術へ

山のことが好きやもんで、この仕事は楽しいほうやなぁ。枝打ちすりゃここ、間伐するりゃこう、次はどうして、それを考えて。仕事仲間が4人おるけどおれが1番年寄りで、1番やっとるもんでだいたいおれの思いどおりに。みんなが一生懸命やってくれるもんで。30haの山を2年と3カ月かな。連続にやらしてもらったわ。仕事をしていてうれしいことは、友達と一緒に仕事をすること。逆につらいことは、この年になったもんで、30分か40分連続にやるってことができんで、15分か20分やりゃ5分間休憩するとか、少しずつ休んでやらんと昔のようにいかん。冬とかは寒くて手の先が痛いくらいになるなぁ。それが1番つらいわ。雪が降りゃもう山行けんしなぁ。夏は暑くてもう汗だくで。まぁ春と秋が1番ええわ。



名人自作の鎖足場

鎖足場を使い枝打ちしている様子

高いやつは、たまたま15mぐらい登って下ろいたやつもあるけど、普通は10mから12mぐらいは登る。木をどうやって登るかを考えて足場を自分で作った。前は電話の外線の工事の仕事にもいっとったもんでそのときの足場を改良して作ったわけよ。

5. ヒノキのよさ

強い風のときは、ものすごうゆする。ヒノキは丈夫いもんで絶対おれへん。昔は胴綱やなんかを10mくらいのとこまで打っても使わなんだけど、まぁやっぱり年とってくると危険やし、今は高いとこ登るときは利用しとる。胴綱あると両手が使えるもんですごい体は楽やわ。枝打ちはじごは1本2mで3本つなぐと6mになるわ。それから上へ足場をいくつか使って、はしごの上から1m以上になるともう登れへん。枝の木に届きゃぁなんとか登れんことはないけど。んでこの足場を使って枝のあるとこまで登っていくわけや。ミニチェーンソーって言って、使いええし楽やわ。山行っても調子がわるうなると全然仕事にならへん。やで、予備として大きいやつと小さいやつを持ってきおる。必要なとき何でもできるように。何でもそろえてある。

枯れたヒノキは曲がっとる。もとが。ほんでわざと皮をむいて枯らいてある。皮むくと枯れる。夏はヒノキの皮がペラーと簡単にめくれる。夏は水を含んどるで。冬になるともう皮はめくれん。

6. 山の管理

自分の山には、ほかの場所が30カ所くらいあるもんで毎日は行かんな。小さい山オンリー。たまたま、山の面積が小さいのが何カ所もあるもんで1人でやるにはちょうどよかった。遠いとこの山ならこんなとこの草やなんか刈れへんけど、近いもんで運動がてら行ってる。狐もおるし狸もおるしイノシシもおる。山を管理しているのは楽しいよ。たまに見に行くやつが楽しみで。ただ足がへぼなったもんで、ものすごい急なとこやと疲れるわ。今仕事やりおるとこも、標高が高いもんですごい急なとこで、途中で2回くらい休んでは登って行かんと。現場まで行くまでに疲れちまう。チェーンソー2台と、燃料と弁当も持って行かないかん。雨降ったら背中にしょって登らなかんで重たい。手でさげるではとてもえらい。木に登ってるときに周りの景色を見たりする余裕はあんまないな。ものすごい山の高いとこ行って、遠いとこまで見えるとこやなんかは、たまには眺めたりするときもあるけど。なかなかそんな気にはなれんよ。1歩でも登りゃあいかにはよう降りれるかやで。

もうこれから10年、20年たつと山の境界がわからんようになっちまうわ。おれらの生きとるうちは、境界のわからんとこはほとんどないけど、地元の人が山に全然行かんようになるとわからんようになってまう。

育てた木が同じ大きさになるかというと、そうゆうわけにいかんなやっぱ。よう肥えたとこと、やせたとこでも格段の差があるし、勢いのいい木と、育ちの悪い木とあるで。やせたとこには、肥料を春1回やる。

7. これから

1日中山にいてもあきんよ。地域では、「佐見の道と川を守る会」というボランティアのグループで、3、4回くらい川端とか道路端の草刈りをしとる。平成23年10月8日に白川町民センターで、ゴールドマイスターに認定してもらった。林業のほうで枝打ちやとかのやつ。白川町で5人。4人は農産物の関係やったし、おれは山の1人や。

今健康でいれるのは、森林浴や歩いて山道を登ることが関係していると思う。今までやったことは子ども孫の代まで残していきたい。これからも今までどおりが、1番の幸せの状態やと思う。

名人 安江（やすえ） 正行（まさゆき）さんのプロフィール

●生年月日：昭和11年1月7日生まれ
●職業：農林業

所有山林13haの80%にヒノキを植林し、適切な枝打ちと適期の間伐を行う。電気通信工事業の経験を活かして、独自で考案した鎖とアルミ製足場で作った木登り機を使用し、高所まで枝を打ち、四面無節の優良材の生産に取り組む。会社退職後は、地域の森林の間伐や枝打ちを進めるほか、地元の「佐見の道と川を守る会」にも参加して、地域の環境づくりの指導者として活動されている。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　黒崎隆司】